

## 利便性考え 負担を軽減

障害者や介護者に、より快適な住環境を提案するケアリフォーム。中でも頻繁に使う水回りは、利用者の身体能力に合わせて改善することで、障害者や介護者の負担が軽減する。トイレと洗面台のリフォームについて、前回に引き続き(有)ラムハウジングで話を聞いた。

### ケアリフォーム㊦ (トイレ・洗面台)

臭いが気にならない自然素材のバリアフリー床や手すり、間口を広く取った引き戸に改修したトイレ

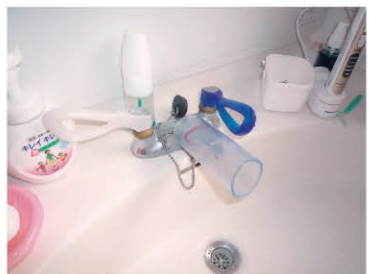


加齢や疾病、事故などによる障害で体が不自由になつた際に、最も要望が多いのがトイレのリフォーム。一般的な改修箇所として、手すりの取り付けや段差解消のほか、「すべりにくく、車イスでも移動がしやすいように、木などの床材に張り替える」「ドアの間口を広く取り、開閉が楽な引き戸にする」「自動洗浄機能など、手入れがし

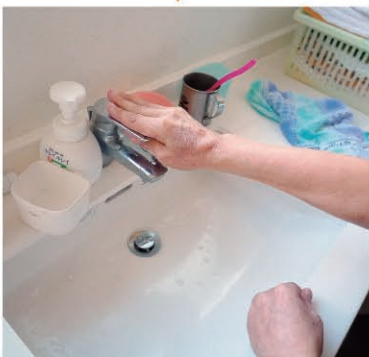


介護のしやすいペーパーホルダー付きの跳ね上げ手すり(便器右)やシンク下に広々と空間を取った洗面台

やすく体への負担も軽い洋式便器に交換する」などが挙げられる(左上写真)。  
川上優代表取締役は「それぞれの能力や必要性に応じたリフォームを行うことで、残存能力や潜在能力を引き出し、精神的にも楽になつたという声があります」と強調。手すりを例にとっても、利用者の体格、症状や進行具合、介護



者の利便性に添つた器具の選択や取り付け方法を相談するのが重要だと指摘する。  
また、トイレと合わせてリフォームすることで使い勝手向上が望めるのが洗面台(左中下写真参照)。トイレや洗面台をバリアフリーにして一カ所にまとめ、移動距離を少なくして利便性を高めたり、収納スペースを一方所にしてシンク下を開けることで、イスや車イスでの利用が可能に。シングルレバーのシャワー水栓も開閉がしやすく、洗髪な



シンク下にイスを置く空間を設け、シングルレバー水栓にしたことで、手が届きやすく水栓の開け閉めも楽に

どにも便利だという。  
川上代表は「できるだけ一度で工事をする方が、時間的にも予算的にも負担が軽くなります。介護保険や障害者保険を利用する際には、ケアマネジャーや理学療法士、作業療法士のアドバイスをもとに、経験豊富な業者と使い勝手や予算に合わせたリフォームを相談してみるのがよいでしょう」とアドバイスする。  
取材／藤井千加(ライター)  
写真提供／(有)ラムハウジング  
Ⅱ第1・3週に掲載